



「マリアニスト」復刊を祝って

マリア会 清水一男



「マリアニスト」誌は、諸般の事情で、創刊100号をもって休刊していましたが、このたび新しいかたちと方式で復刊することになりました。

マリアニスト創刊号で富来師は次のように書いています。「マリアニスト信徒共同体に属する方の中から、お互いに情報を交換し相互の交わりを深めるための機関紙が欲しいとの声があがりました。・・・この機関紙を通して、シャミナード師に与えられたカリスマを生きようとする信徒も修道者も、互いの交わりを深め、自らに与えられた使命を生き抜く力が得られるよう願います。」

マリアニスト誌は、歴代の編集責任者、また多くの方々の編集作業に支えられて、最初のMLC奉獻者が誕生した1992年10月に創刊され、毎年6回、隔月で発行されて丁度17年で100号となっていました。この間、マリアニスト誌創刊の趣旨に沿った編集が継続され、マリアニスト精神の説明、国内や海外のマリアニスト家族のニュース、種々

のお知らせ、MLCの各グループ紹介など、マリアニスト家族内の情報交換と交わりを深めるといふ大きな役割を果たしてきました。

諸般の事情で休刊していた2年間にも、復刊を望む声種々の機会に上がっていましたが、昨年11月の家族評議会において、マリアニスト誌を復刊することが決定され、当分の間、FMIのSr.小林と有期誓願者が中心となって年4回発行することになりました。最初の復刊号を101号とし、1月(冬号)、4月(春号)、7月(夏号)、10月(秋号)に季刊誌として発行し、インターネットを通して各共同体の責任者に送信され、必要な方には印刷して届けられることになっています。

MLC、AM、FMI、SMの各枝からは適宜、それぞれのニュース、お知らせ、海外の動きなどが編集部届けられ、家族内の連携と交わりを深める手段として成長することが期待されています。

各会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



私は元旦に皆さんをイエス・キリストと尊いおん母にお捧げしました。ご一同のため、お一人おひとりのため、皆さんのそれぞれが必要としているすべての恵みをお二人にお願いいたしました。

皆さんがご存知の必要とご存知でない必要のために、神様がそのおんあわれみによって皆さんに与えることのおできになることは、すべてお願いしました。

シャミナード師の手紙 1822.1.10

シャミナード神父のマリア観の斬新さ

マリア会地区長 青木 勲

私達マリアニストは、特別に「聖母マリアとの関係が深いはずです」と言われますが、それが実際どのようなことを意味しているのかと改まって聞かれると以外とはっきり説明ができないのが現状のようです。あなたはどうですか。

復刊した「マリアニスト」誌を通してマリアニストの霊性と宣教に関するテーマの幾つかについて分かち合いをしたいと思います。私達がマリアニストとして自信を持って生きていけるためにもマリアニスト家族の中からもカリスマの専門家が輩出してくれる必要があります。創立者の偉大な思想とビジョンを知れば知るほど、私達のアイデンティティーが固められると思うからです。今回は1988年に来日して講演されたステファネリ神父様のお話をもとにしてシャミナード神父が持っていた「マリア観」に接近したいと思います。

創立者のマリア観の中心は「マリア」
その人自身の使命と選びです。

「マリア観」と言えば直ぐ、「マリアへの信心業」や「マリアの奇蹟や出現物語」、「マリアに捧げられた巡礼地」等が思われがちですが、シャミナード師のマリア観の根本はそのような付帯的な事項ではなく、イエスの母となったマリア自身、救いの歴史において果たした使命と選びとの関係の中で捉えられています。勿論シャミナード神父も時代の子として幼少の頃の足の事故の治癒のためにベルドゥレの聖母マリアの巡礼地に詣でた事実、更にスペイン亡命中サラゴサの柱の聖母の巡礼地で祈り将来のマリアニスト家族設立のインスピレーションを受けたのは有名です。し

かし彼は神学博士の資格を取り、聖書神学に深く学び旧約聖書に見られるマリアの前表の研究と初代教会から伝わる聖母マリアについての教父達の神学的著作にも精通していました。また新約聖書の聖パウロの「キリストの体」の教会論的シンボリズムを通して、キリストが教会の体の頭であれば、キリストの母となったマリアは同時にこの教会の霊的母であることを極めて明快に表明しています。ガラテヤ書4章4節はその聖書学的基礎の箇所と目されていますがそこには「定めの時が来たので、神はご自分の御子を遣わし、この方を女から生まれた者、また律法の下にある者となさいました」とマリアからこのイエスが誕生したことを強調しています。マリアの懐妊の神秘において、イエスの父性は聖霊の働きによるとしても、人間としてこの世に派遣された神の御子は、事実生身のマリアの血肉から作られました。マリアはイエスの神性そのものの原因ではありませんが、神の子であり同時に人の子として生まれたイエスの正真正銘の母親なのです。ヨハネ福音書の冒頭の「み言葉は人となって、私達の中に住まわれた」と言うイエスの救い主としての到来の事実にとって不可欠な協力者は他ならぬマリアその人でした。彼女のリクエストで「メシア的時間」の到来を早めてカナで生命の誕生の前提である婚姻を祝福し、カルワリオの丘の十字架のもとで、全人類の贖い主である御子と共に自らを捧げ尽くし、ヨハネによって代表される全人類の霊的母として旧約聖書のエバ(生きる者の母)と対峙させられています。聖霊降臨の日、使徒達と共に聖霊を受け産声をあげたばかりのキリストの教会の行く末を見守る役割も引き受けられたのでした。実に

第二バチカン公会議の第8章の「教会の母」に関する根本的なマリア的教会論の教えについて、創立者シャミナードは110数年も前にすでに公言していたのです。

最後に、シャミナード神父のマリア観は終始一貫して「キリスト中心」だということです。時として行き過ぎたマリア信心や崇敬の傾向がある中でシャミナードはあくまでもマリアの子となったキリストの救世と言う前代未聞の使命の完成のために挺身する最も完全な神のはしためとして尊敬していたのです。



今回のテーマを参考にして

- ① あなたが持っていた「マリア観」は今までどのような性格のものでしたか。
- ② 「イエス・キリスト」への信仰よりもマリアへの信心業やマリアの奇蹟物語や巡礼地の訪問等が優先しているようなケースを知っていれば挙げてみてください。
- ③ 非常に狭くて伝統的でモラリックなイメージのマリア観も一時期、教会の内外を風靡しました。どういう特徴があったかお互いに話し合いながら、貴方にとってマリア様が誰であるか言い表してください。



新年がよい年でありますように。
 これまでの年よりも、この年をもっとよく過ごすように努めましょう。
 神のために何かをすること、私たちの中にある神のみ旨に叶わない
 すべてのものを矯正することを始めましょう

アデル・トランケレオンの手紙 1813.12.29

記念日



マリア会	汚れなきマリア修道会
誓願 60年 富来正博 1952.03.25 50年 藤原忠房 1962.03.29 叙階 25年 市瀬幸一 1987.09.15 松本幸徳 1987.09.15 小教区創立25周年 小ヶ倉教会 1987.09.08	誓願 60年 大木章子 1952.12.08 50年 畑原貞子 1962.04.01 光島日出子 1962.04.01 大橋淳子 1962.09.12 大堀美知子 1962.04.01 坂本光子 1962.04.01 —わたしの魂は主をあがめます—

シャミナード年研修会

2012年1月8日～9日 於：暁星学園

シャミナード年を記念する日本マリアニストの大切なイベントとして、長年、アメリカのデイトン大学にある教皇庁立マリア学研究所の所長を務められたヨハン・ロータン師（マリア会）をお招きしての研修会が、1月8日～9日、暁星学園を会場として開催されました。本来、昨年3月27日～28日に予定されていましたが、東日本大震災のためにこの時期に延期されていました。

MLC、AM、FMI、SMのマリアニスト家族の70名を超えるメンバーが全国から集い、マリア様、シャミナード師、マリアニストの霊性、私たちのアイデンティティと使命等について、パワーポイントの映像を見ながら、深い学識に裏付けられたロータン師の講話に、柿山先生（マリア会）の通訳を通して耳を傾けました。

ロータン師は、私たちのマリアニストに関する知識を前提として、上記の内容についてこれまでとは少し異なった視点から、個別的というよりも総合的に話されました。

様々なアイコンや絵画を用いながら、そこに描かれている細部にいたるまでの意味を解き明かされ、それらの持つ深い意味に私たちを



導き、シャミナード師が私たちマリアニストに与えた広くて深いカリスマ（精神）に触れることができるようにして下さいました。

MLCの皆さまには、後日、柿山先生が要約して講話して下さることになっていますので、その機会を楽しみにして下さい。

最後に、貴重な講話をして下さったロータン師と、わかりやすい見事な通訳でこの研修会を支えて下さいました柿山先生に、心から感謝いたします。二日間にわたる連続した通訳の仕事は大変な重労働ですが、先生は快く、ユーモアを交えて、私たちのために奉仕して下さいました。

本当にありがとうございました。

マリアニストのカレンダー と 聖マリアの祝日

1月	1日	神の母聖マリア
	10日	メール・アデルの帰天記念日
	22日	福者シャミナード神父の帰天記念日 シャミナード年の閉会
2月	2日	主の奉献
3月	19日	聖ヨセフ
4月	8日	復活祭 福者シャミナード神父の誕生日

シャミナード年記念講演会

ヨハン・ロータン師 (SM) 2012/1/8～9

シャミナード師が私たちに教えられたことは次の5点に要約されます。

1. 神の人間への出会い。存在「ある」ということ
2. マリアニストの霊性
3. 使命（宣教）
4. 霊的景観（地理）
5. 連帯性の将来

第1回 神の人間への出会い。存在「ある」ということ（要約）

シャミナード師は「存在」「ある」ということばを非常に大切にしています。

それは 精神の存在 私たちが人々の間に存在するという意味からです。クリスマスの季節にあって、私たちは、私たちの中におられる神の存在を祝っています。イエスの誕生のすばらしい物語、受肉の神秘の中にシャミナード師はマリアニストの精神を見ました。その神秘の中に師が見出したことは、今を生きること、積極的にここに存在することです。受肉の神秘は、現実的であり、知性と意志をもって、こころをこめて生きること、存在することです。いつも寛大な取り組み、姿勢で生活することです。

それゆえにシャミナード師は次のように勧めています。

一日を始めるにあたって、私たちの意識を神の前に置くこと。念禱の始めに、自分を神の現存の中に置くこと、毎日、いつも神の前にいることを意識するために射禱(短い祈り)をたびたび捧げること、3時の祈りをするなど...神の現存とキリストとの出会いのために実践を促しました。「神の現存」を大切に、神はいつも私たちに出会いに来られると



教えました。

神の存在はいろいろな形で表わされます。キリストにおいては受肉の神秘として表わされ、そこにおいてすべての人が招かれていることを表現しています。

シャミナード師は言われます。神の存在の中に自分を置くこと、すなわち、受肉の神秘の中に自分を置くことです。受肉は継続的であり、時代、文化、場所によって異なります。

マリアニストは今の時代においてキリストの受肉を示すように招かれています。

2012年 マリアニスト家族の集い

今年のマリアニスト家族の集いは、シャミナード年の終結として、研修会の機会に合わせて開催されました。

100名ほどのマリアニストが参集し、例年のように、ミサと懇親会を中心とした楽しい集いでした。

今回は、特に、ロータン師（スイス）を始め、すばらしい歌声を響かせてくださった Bro. グレゴリオ（韓国）、楽しい歌と踊り、そしてマジックを披露して下さったベトナムのシスター方の存在を通して、日本のマリアニストも国際色が豊かになりつつあることを実感させてくれました。

また、マリア会では、今回の研修会を全会員の地区集会として参加してもらっていたので、札幌、大阪、長崎の会員のほぼ全員が参加した真の意味での日本マリアニスト家族の集いとなりました。



お知らせ

汚れなきマリア修道会

☆ 韓国地区 Sr.李明姫テレサの来日

韓国地区は日本管区の助けとなるならばと、任期を満了したばかりの前財務部長李明姫テレサを2012年1月16日、日本管区に派遣していただきました。姉妹は調布共同体に所属し、まずは日本語の勉強をいたします。

大切な人材を割いて、姉妹を派遣して下さった韓国地区に感謝しながら、姉妹が一日も早く新しい環境に順応し、日本での滞在を喜びのうちに過ごされますよう願っています。

☆ Sr.金レジナの帰国

本会の創立の地である「アジャン共同体」での2年半の奉仕を終え、1月26日、日本に帰国いたします。異文化の中で、苦労も多かったことと思いますが、また、源泉の地での得がたい貴重な体験も積まれたことでしょう。

アジャン滞在中、お祈りや励ましの言葉で姉妹を支えていただきました皆様に感謝いたします。

■ 『主のもとに憩う祈りのひととき』

一日の仕事を終え、心も体もほっとして家路につくひととき、
月に一度、
ご聖体の前で沈黙のうちに祈り、自分を振り返ってみませんか？
どなたでもご参加いただけます。
遅刻も、途中参加も可能です。


◆ 2012年 予定 / 毎月： 第3水曜日 pm 7:30~8:30

2012年	1/18	2/15	3/21	
	4/18	5/16	6/20	7/18
8月/お休み	9/19	10/17	11/21	12/19

会 場： マリア会 シャミナード修道院 聖堂
〒102-0071 千代田区富士見1-2-43

担 当： 清水一男 神父

問合せ： Tel. 080-5873-6637 シスター小林



■ 『祈りと学び【アデル】』

汚れなきマリア修道会の創立者
フランス革命のさなかに生きたおとめ“アデル”について学びます。

◆ 2012年度 予定 / 毎月： 第2土曜日 am 10:00~12:00 (原則) 4月開講

2012年	4/14	5/12	6/9	* 7/7
8月/休み	9/8	* 10/13	11/10	12/8
2013年	1/12	2/9	3/9	

(* 7月は都合により変更、10月は祈りの日の集いに参加)

会 場： 汚れなきマリア修道会 町田修道院
〒194-0032 東京都町田市本町田3050 - 1

対 象： 関心のある方はどなたでも

費 用： 無 料

担 当： Sr.小林幾久子

締 切： 2012年2月29日(水)

申 込： 住所、氏名、所属教会、電話番号、(メールアドレス)を記入の上、
ファックス・Eメールのいずれかで申し込んでください。
メールアドレス： marianist@marianist.jp / Fax. 042-480-3881
問合せ： Tel. 080-5873-6637 シスター小林

■ 『青年のための練成会』

— 信徒として、あなたは・・・？ —

日 時 : 2012年2月18日(土)午後3時~2月19日(日)午後4時
場 所 : 汚れなきマリア修道会 町田修道院
〒194-0032 東京都町田市本町田3050 - 1
042-722-6301
対 象 : 18歳~35歳の未婚の男女(年齢については相談に応じます。)
費 用 : 3,000円 (当日徴収)
* 遠方から参加の場合、交通費に関してはご相談ください。
定 員 : 15名
締 切 : 2012年2月10日(金)
申 込 : 住所、氏名、年齢、所属教会、霊名、メールアドレス、携帯番号を
記入の上、ファックス・Eメールのいずれかで申し込んでください。
メールアドレス : marianist@marianist.jp / Fax. 042-480-3881
問合せ : Tel. 080-5873-6637 シスター小林
主 催 : マリアニスト
H P : <http://www.marianist.jp/>

■ 新刊の紹介



シャミナード師生誕250年を記念して、「シャミナード師のメッセージ」- その現代的意味 - がマリアニスト・シリーズ19として刊行されました。これは、スペインのマリア会員、エドアルド・ベンヨック師が、マリア会がスペインに入ってから100年目にあたる1987年に著した“El Mensaje Chaminade Hoy”の英語版“Chaminade's message Today”からの翻訳です。

この本は、世界のMLCの会員に捧げられおり、マリアニストの起源に焦点を当て、そのアイデンティティや精神、及びその現状を詳しく述べています。特に、シャミナード師の39歳~56歳までの17年間、MLCが誕生した1800年~マリア会創立の1817年に絞って、師が福音宣教を目指して組織した使徒的なプロジェクト、すなわち、MLC、AM、FMI、SMが、なぜ、何のために創立されたのか、その精神や特徴について、その当時の時代背景に基づいて説明しています。また第二部では、シャミナード師のメッセージの現状について触れ、マリアニスト家族の発展と現状、四つ

の枝の関係の在り方、マリアニスト・カリスマなどについて説明されています。

マリアニストやその精神について、私たちは様々なかたちで理解を深めていますが、それらの理解を根源に立ち戻って整理し、全体的に統合したかたちで理解する上で、この本は大きな助けと示唆を与えてくれると思います。

この本の基本的な翻訳はマリア会の清水一男師が担当しましたが、FMIのSr.小林幾久子、MLCの平井洋子さん、林まさみさんの献身的なご協力によって、今回の刊行の運びとなりました。文字通り、マリアニスト家族としての刊行となったことを喜びたいと思います。

発 行 : 日本マリアニスト家族評議会

問い合わせメール : marianist@marianist.jp

ホームページ : <http://www.marianist.jp/>